

SDGs 実践例紹介コーナー

経営環境が目まぐるしく変化し、企業経営が大変厳しくなるなか、SDGsがビジネスチャンスに成りうると「SDGs経営」にチャレンジする中小企業も増えつつあります。こうしたなか、当所では、SDGs経営の導入に向けた「SDGs経営診断」など新たなサービスを開始しました。サービス内容に関するご相談は当所中小企業相談所までお問合せください。

今号のSDGs実践例紹介：カネ政運輸有限会社



きっかけ

小牧青年会議所（JC）に所属していたこともあり、SDGsの前身であるMDGs（ミレニアム開発目標）から取り組みをはじめていました。大手の取り組みを参考に**自社でも目標を掲げて動いてみよう**と、お取引先でもある名古屋銀行さんにお手伝いいただき、SDGs宣言を発するに至りました。



2つの秘訣

1 明文化する

（表に出していなかった企業風土やポリシーを言語化する）

2 自社制度に落とし込む

（世界的な基準の中に自社を位置づける）



結果

2015年に先代社長である父から代替わりをしたのですが、多くを語らなかつた父の背中から感じていた会社経営に必要なものを、**明文化する指標になったのがSDGs**でした。弊社が得てきた信頼、社員とのコミュニケーション、守るべき信条など、SDGsに照らし合わせて考えると整理されわかりやすくなったと思います。それをエコ活動や地域貢献活動、評価制度に落とし込むことによって、**会社風土の醸成**につながっています。何より、SDGsを掲げることによって、協力してくれる方や企業が声をかけていただきやすくなったと思います。まだまだ社内への浸透には課題がありますが、継続的に発信していきたいと考えています。

1 会社の持続力向上 2 多様な社員・働き方への対応 3 対外的な認知の向上 4 女性管理職の任用

環境



物流業としてエコドライブの実践はもちろんのこと、処分が大変なラッピング材を削減・代替品の活用・リサイクルなどを行い**環境負荷削減**を図っています。また、天然ガス車や水素車両など環境対策車両の導入検討、廃棄オイルのリサイクルなど、環境に配慮した取り組みを続けています。

地域貢献



地域の清掃活動ボランティアにはじまり、激甚災害時における緊急輸送対応、コロナ禍における医療従事者へのメッセージを届ける事業など、**物流業ならではの手段**で地域・社会へ還元する活動を行っています。

人権・雇用



弊社は365日稼働する倉庫・物流業のため、多様な業務が発生します。そのため社員の評価項目もそれだけ細分化させ、やればやっただけ評価されるような人事制度を構築しています。また、外国人社員も多く、**国籍・性別・年齢関係なく公平な雇用**を守るため、日々社員と向き合うことを大切にしています。



会社概要

カネ政運輸有限会社

2001年創業。「笑顔で、安全に、確実に、迅速に」をモットーに低温配送事業および倉庫業を行う物流企業です。配送と倉庫業務を自社内で完結できるフットワークの軽さを強みとし、東海エリアを中心に物流網を広げています。社員の2割程度が外国人であり女性管理職も在籍。運送会社のネガティブなイメージを払拭したいという強い想いと、親子二代で勤務する社員もいるほど安心される企業風土が特徴です。



代表取締役社長 田島亜子